

MONTHLY LINE UP

いま、水俣を考える



© 疾走プロダクション

水俣曼荼羅

〔2020 年／日本／372 分〕 監督：原一男

はじまりの海、おわらない世界

2004年10月15日、最高裁判所、関西訴訟。「国・熊本県の責任を認める」判決が下った。この勝利をきっかけに、原告団と支援者たちの裁判闘争はふたたび、熱を帯びる。「末端神経ではない。有機水銀が大脳皮質神経細胞に損傷を与えることが、原因だ」これまでの常識を覆す、あらたな水俣病学論が提出される。わずかな補償金で早急な解決を狙う、県と国。本当の救済を目指すのか、目先の金で引き下がるのか。原告団に動揺が走る。そして…熊本県、国を相手取った戦いは、あらたな局面を迎えることになる。

〔上映日程〕 **4/9~22**
(休映：4/11、18)
〔鑑賞料金〕
当日一律 **¥3,900**
(各種割引対象外)
前売鑑賞券**¥3,600**

初日舞台挨拶あり
4/9(土)11時15分の回の上映後、原一男監督による舞台挨拶を予定しています。



© 2020 MINAMATA FILM, LLC / © Larry Horricks

MINAMATAーミナマター

〔2020 年／アメリカ／英語・日本語／115 分〕
製作：ジョニー・デップ 監督：アンドリュー・レヴィ
原案：「写真集 水俣」W. ユージン・スミス、
アイリーン M. スミス（著）出演：ジョニー・デップ、
真田広之、國村隼、美波、加瀬亮、浅野忠信、岩瀬晶子、
キャサリン・ジェンキンス、ビル・ナイ
音楽：坂本龍一

一枚の写真が世界を呼び覚ます

1971年、ニューヨーク。アメリカを代表する写真家の一人と称えられたユージン・スミスは、今では酒に溺れ荒んだ生活を送っていた。そんな時、アイリーンと名乗る女性から、熊本県水俣市にあるチソン工場が海に流す有害物質によって苦しむ人々を撮影してほしいと頼まれる。水銀に冒され歩くことも話すことも出来ない子供たち、激化する抗議運動、それを力で押さえつける工場側。そんな光景に驚きながらも冷静にシャッターを切り続けるユージンだったが、ある事がきっかけで自身も危険な反撃にあう。追い詰められたユージンは、水俣病と共に生きる人々にある提案をし、彼自身の人生と世界を変える写真を撮る――。

〔上映日程〕 **4/2~15** (休映：4/4、11)
〔鑑賞料金〕 一般¥1,500／その他通常通り



© ドキュメントアジア

標的

〔2021 年／日本／99 分〕 監督：西嶋真司

真実か。捏造か。

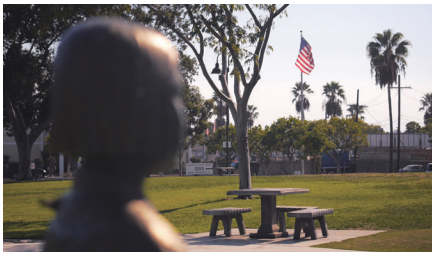
「捏造記者」の汚名を晴らす闘いが始まる。

元慰安婦の証言を報じた新聞記事をめぐる誹謗中傷や脅迫とその背景を取材し、日本ジャーナリスト会議賞を受賞したドキュメンタリー。1991年、朝日新聞大阪社会部記者の植村隆氏は、ある韓国女性がかつて女子挺身隊の名で戦場に連行され、旧日本軍の軍人を相手に性行為を強要されたと証言したことを報道するが、2014年ごろから「捏造記者」「売国奴」といった植村氏へのバッシングが強まる。標的にされた植村隆氏とその支援者の姿を追う。

〔上映日程〕 **4/23~29** (休映：4/25)

初日舞台挨拶あり

4/23(土)10時からの回の上映後、本作品主人公/週刊金曜日発行人の植村隆氏による舞台挨拶を予定しています。



© NO MAN PRODUCTIONS LLC

主戦場

〔2018 年／アメリカ／122 分〕 監督・脚本・撮影・編集・ナレーション：ミキ・デザキ 出演：トニー・マラーノ aka テキサス親父、藤本俊一、山本優美子、杉田水脈、藤岡信勝、ケント・ギルバート、櫻井よしこ、吉見義明、戸塚悦朗、ユン・ミヒャン、イン・ミョンオク、バク・ユハ、フランク・ウィンテロ、渡辺美奈、エリック・マー、林博史、中野晃一、イ・ナヨン、フィリス・キム、キム・チャンロク、阿部浩己、俵義文、植村隆、中原道子、小林節、松本栄好、加瀬英明、他

ようこそ、「慰安婦問題」論争の渦中へ

日系アメリカ人映像作家ミキ・デザキが慰安婦問題をめぐる論争をさまざまな角度から検証、分析したドキュメンタリー。慰安婦問題について、デザキの胸をよぎるさまざまな疑問。慰安婦たちは性奴隷だったのか、本当に強制連行はあったのか、元慰安婦たちの証言はなぜブレるのか、日本政府の謝罪と法的責任とは……。この問題を検証すべく、日・米・韓の肯定派と否定派それぞれの人々に取材を敢行。さらにニュー映像や記事の検証を交え、この問題を検証していく。

〔上映日程〕 **4/23~29** (休映：4/25)
〔鑑賞料金〕 一般 ¥1,500／その他通常通り



©2022 「ぼけますから、よろしくお願ひします。～おかえりお母さん～」製作委員会

ぼけますから、よろしくお願ひします。～おかえりお母さん～

〔2022 年／日本／101 分〕 監督・撮影・語り：信友直子

母が認知症になっても、父は変わらぬ愛を注ぐ結婚生活60年を過ぎた90代夫婦の生きる道

両親の老老介護の様子を収めた『ぼけますから、よろしくお願ひします。』のその後を追ったドキュメンタリー。2018年、母の認知症はさらに進行し、ついに脳梗塞を発症してしまう。父親は入院した妻に面会するために毎日1時間ほどかけて病院に通い、妻が帰ってきたときのために98歳にして体を鍛え始める。しかし、新型コロナウイルスの流行により面会が制限されてしまう。日本の高齢化社会の深刻な問題を含みながらも、愛情あふれる夫婦の姿が活写される。

〔上映日程〕 **4/2~22** (休映：4/4、11、18)



© 東海テレビ放送

人生フルーツ

〔2016 年／日本／91 分〕 ナレーション：樹木希林 プロデューサー：阿武野勝彦 監督：伏原健之

人生は、だんだん美しくなる。

愛知県にある高蔵寺ニュータウンで、雑木林に囲まれ野菜や果物を育て、ほぼ自給自足の生活を営む津端修一氏と妻の英子さん。以前は日本住宅公団に勤務していた津端氏は、同ニュータウンの設計を任せられ自然との共生を目指す、高度経済成長期の影響により完成したのは大規模で画一的な街だった。その後夫妻はこの地に住み、雑木林を育て始める。それから50年、ふたりはコツコツ、ゆっくりと時をためてきた。時を重ねてきた二人の暮らしを通し、日本人があきらめてしまった、本当の豊かさを見つめなおす。

〔上映日程〕 **4/2~8** (休映：4/4)
〔鑑賞料金〕 一般 ¥1,500／その他通常通り

カトウシンスケ 主演作品特集！



(C) J&B30 製作委員会

誰かの花

〔2021 年／日本／115 分〕 監督：奥田裕介 出演：カトウシンスケ、吉行和子、高橋長英、和田光沙、村上穂乃佳、篠原篤、太田琉星

誰かの想いと、悲劇と救い

鉄工所に勤務している孝秋は実家の団地を訪れるが、父の忠義は孝秋と数年前に死んだ孝秋の兄との区別がつかなくなっていた。ある日、団地のベランダから落ちた植木鉢が住民に直撃するという事故が起こる。心配した孝秋が実家に駆けつけると、ベランダの窓が開き、父の手袋に土がついていた。

〔上映日程〕 **4/23~5/6** (休映：4/25)



上映初日の舞台挨拶付上映回にカトウシンスケさんから学生皆さんへチケットプレゼント（無料招待）！鑑賞希望のお客様は劇場窓口にて学生証をご提示ください。



初日舞台挨拶あり
4/23(土)14時50分からの回の上映後、カトウシンスケさんと奥田裕介監督による舞台挨拶を予定しています。



(C) 「ケンとカズ」製作委員会

ケンとカズ

〔2016 年／日本／96 分〕 出演：カトウシンスケ、毎熊克哉、飯島珠奈、藤原季節、高野春樹、江原大介、杉山拓也 監督・脚本・編集：小路祐史

ここから這い上がんだよ――

悪友であるケンとカズは、自動車修理工場を隠れみののとしながら覚醒剤の売買で金を稼いでいた。そんな中、ケンの恋人である早紀が妊娠。ケンはまっとうな人生を願うようになる。一方、カズは認知症の母を施設に入れるために金が必要なことを打ち明けられずいた。やがてカズは密売ルートを増やすため、敵対グループと手を組むという危険な行動に出る。これを最後の仕事にしようとしたケンだったが、元締めのカズに目をつけられ次第に追いつめられていく……。

〔上映日程〕 **4/23~29** (休映：4/25)
〔鑑賞料金〕 一般¥1,500／映劇特別会員¥1,000
その他通常通り



©2021 リング・ワンダリング製作委員会

リング・ワンダリング

〔2021 年／日本／103 分〕 出演：笠松将、阿部純子、片岡礼子、品川徹、田中要次、安田顕、長谷川初範 監督：金子雅和

迷い込み、巡り会う

漫画家志望の草介は、不思議な娘ミドリとの出会いから、東京に眠る記憶を知る。過去と現在が織り交ざる、切な幻想的な物語。

漫画家を目指す草介は、絶滅したニホンオオカミを題材に漫画を描いているが、肝心のオオカミをうまく形にできず前に進めない。そんなある日、バイト先の工事現場で、逃げ出した犬を探す不思議な娘・ミドリと出会う。転倒しケガをしたミドリを、彼女の家族が営む写真館まで送り届けるが、そこはいつも見る東京の風景とは違って……。



〔上映日程〕 **4/16~29**
(休映：4/18、25)
初日舞台挨拶あり
4/16(土)15時15分からの回の上映後、金子雅和監督による舞台挨拶を予定しています。



(c) Genuine Light Pictures

春原さんのうた

〔2021 年／日本／120 分〕 脚本・監督：杉田協士 原作短歌：「転居先不明の判を見つめつつ春原さんの吹くリコーダー」（ちくま文庫『春原さんのリコーダー』より） 出演：荒木知佳、新部聖子、金子岳憲、伊東沙保、ほか

第32回マルセイユ国際映画祭
グランプリ・俳優賞・観客賞 受賞
世界各地の国際映画祭で注目を浴びつづける珠玉作

美術館での仕事を辞めてカフェでのアルバイトを始めた沙知（24）は常連客から勧められたアパートの部屋に引越しをする。そこでの新しい生活を始めた沙知だったが、心にはもう会うことの叶わないパートナーの姿が残っている。

〔上映日程〕 **4/30~5/13** (休映：5/9~10)



アフタートークあり
5/1(日)13時50分の回の上映後、杉田協士監督と、高橋久美子（作家・詩人）さんによるアフタートークを予定しています。